

記 事

例会記録

日本医史学会 3月例会 平成23年3月26日(土)
順天堂大学医学部8号館1階3番教室

1. 戦後占領期における赤痢の流行と対策
田中誠二
2. 元海軍軍医・野上八十八の「経菌的結核感染の研究」——加賀乙彦の自伝的小説『永遠の都』をテキストに——
樋口輝雄

日本医史学会 4月例会 平成23年4月23日(土)
順天堂大学医学部9号館2階8番教室

1. 日本における舌診思想の一考察(その2)
西巻明彦

2. 結核実態調査の戦後史における検討
渡部幹夫

日本医史学会 5月例会 平成23年5月28日(土)
順天堂大学医学部9号館2階8番教室

1. 光明皇后の施薬院・悲田院と施浴伝説
——看護史の視点からの考察——
平尾真智子
2. 宇津木昆台と『日本医譜』編纂に関する新知見
町泉寿郎・天野陽介

例会抄録

戦争のなかの精神障害者

岡田 靖雄

わたしに問題の重大さをおしえてくれたのは、わたしが都立松沢病院にうつったときにでた立津政順「戦争中の松沢病院入院患者の死亡率」(精神神経学雑誌, 第60巻第5号, 1958)であった。立津が数字でしめしたことを、北島治雄看護長は自分の体験としてはなしてくれた。歴史探究の方へわたしを一押ししてくれたのはこの二人である。

第2次大戦の前史として、1939年に大阪府立中宮病院から800mの所にある陸軍工廠禁野火薬庫爆発事故がおきた。使用不能になった病棟から患者を避難させるとき、医長長山泰政は辞表を胸にしていた(患者がしぬことよりもにげることのほ

うが問題とされていた)。

1941年に23,958床(人口1万人対3.29床)にやっと達した精神科病床は急速に減少した。1945年には3,995床という数字がのこされているが、これは実は14府県だけのもので、実際は1万床ぐらいいはあったろう。

松沢病院の医局落書き帳に Deng 熱実験のことがかかれていた。その真偽をたしかめられずにいたところ、上野陽里「第二次大戦末期の Deng 熱流行時における人体実験」(医学史研究, 第70号, 1996)によって、いくつかの大学精神科、精神病院で、患者を対象とした Deng 熱人体実験のおこなわれていたことがわかった。「〇〇病院長内村